## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Sub Title         Effects of short-term international exchange program in nursing education           Author         展尾,リカ(Fujiya, RKa)           Publication year         2019           Jutic         学事原環賞査研究成果実練報告書 (2018.)           Jalc DOD         Abstract         看種医療学部の教育の国際化においては、本学部学生が満外で学習、活動する機会は充実してい る。しかし、留学生の運作状合わってリアクムを実施し、2017年度から韓国・中国・英国・米国から約20人の 留学生を受け入れ、本学部からほぼ同数の学生が参加してのプログラムたちまった。2016年度けてい 年度のプログラムショントンテントンス学校のプログラムの特徴としていくことを目的にしていくことを目的にしている。 2017年度して国際交流プログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしている。 2017年度して国際交流プログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしていくる。 2017年度は年間室に同びラムの効果について明らかにしていくことを目的にしている。 2018年度は本調査に向けて、予欄副室の結果と国際交流や留学プログラムに関する先行研究のレ 2017年度は本調査に向けて、予欄副室の結果と国際交流や留学プログラムに関する先行研究のレ 2018年度は本調査にして研修者、アンケートの自由記述価(基督和)を3とたした。 2018年度は本調査に向けて、不健国を効力感尽度(General Saft-Efficacy Scale 注意例いることにした。 また、予備調査で参加学生の意欲は高くアンケートの自由記述価(基督和)を3とたしたし、 素た、予備調査で参加学生の意欲は高くアンケートの自由記述価を設け、またも分析 対象とすることにした。本学部研究倫理委員会のの認を受け、また、参加学学の責任者にアング ート副農業集体のの詳細を見たした。7.7シケート回転集目を3のの意を存住こ 加速で考示しジェクルクストボータス力と内容を3とが、アンゲートは自記述種変換に、2018年度3とれるこ とが明らかになったので、本年度のアンゲート調査自己にプログラム前調素。2180日CTプ ラム後調査を実施した、アンケート回転集目の必ずるった、アンゲートは果の統計解析のための入」 自由記載欄のテキストデータ入力と内容に関マーロード化が終わり、今後、データを分析し 気にまとめ、国際誌への説種を目指す。           11 他 global and international education of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the students in fiscal 2016 and in fiscal 2017. Hereorgam nas received approximately 20 foreign students for fouries foreign students for full-yaar education. Therefore, the faculty conducted a short- term international education of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the student for participating universities (Korea: Eulij of University, China: Fudan University of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the student interenational exchange program. It was suggested that we a		ICOry of Academic resouces					
Author         毎度、リカ(Fujya, Rika)           Publication year         2019           Julice         学 那風賀査研究成果実績報告書(2018.)           Jac DOI         7           Abstract         7           Abstract         7           7         8         7           7         8         7           7         8         7           7         8         7         7           7         8         7         8         7         10         7         8         7         10         7         7         8         7         10         7         7         10         7         7         10         8         10	Title	看護教育における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの効果					
Publisher         更感義塾大学           Publication year         2019           Julie         学事運興賞金研究成果実績報告書(2018.)           Jall C DOI         Abstract         看護医療学習の教育の国際化においては、本学部学生が海外で学習・活動する場会は充実してい る。しかし、留学生の遅キ教育への受け入れは困難な状況にある。本学部では、2016年度に話録 的に短期留学家け入れ、大学がからちほぼ同気の学生が多加してのフログラムとなった。2016年度に 事業のプログラム学生からの評価は高く、本研究は、看護教育基礎における期間留学生受け入れ 国際交流プログラムの知見について明らかしにていくことを目的にしている。           2017年度に国際交流プログラムの対目。本菜に合わせて、参加大学(報目:ス友大学、中国:使 ロノン学、スカーク大学、米国:ブジントン大学)の開発者と本研究について報告している。           2017年度に国際交流プログラムの計画・工業に合わせて、参加大学(報目:ス友大学、中国:使 日大学、英国・サフィーク大学、米国・ブジントン大学)の開発者と本研究について特徴し、 レビューに基づき、アンケート複目空効力あれた(General Set HEfficicary Seta)を見て得いなると 利定する不見をして、小教自己の力の発行していくことと登日的にしている。           2018年度は本調定と同けて、予備課者の結果と国際交流や留学プログラムに関本を方行研究のし ビューに基づき、アンケート複目空効力あれた(General Set HEfficary Seta)を見いたることだが多ったなったの、オモ目のプリアントト装着においても自己記述機を設け、それたもちが 対策をすることとした。本学経営が完全規でしていてきるたが、プログラム前調を説た、2月8日にブロ クラム後調査を実施した。アンケート回線率は10%であったが、プログラム前機をの一般自己効力 場別をすることとした。本学経営が会理を見合いなどろなった。アンケートも自己の人類のときとした。 オ島市型の会社を見たた。アンケート回線率は10%であったが、プログラム前後の一般自己効力 メスを資産と見いと評価に関しては回答なしたびろとろったが、プログラム前後の一般自己効力 メスを調査を実施した。アンケート回線率は10%であったが、プログラム前後の一般自己効力 メスを見入いた器和をに関してな回答なしたがならったが、プログラム前後の一般自己効力 メスを見合したい器を見いたまでしたりがであったが、プログラム前後の一般自己効力 メスを見入いたれたちまはの本内でしたたがり、プログラム前後の一般自己効力 メスを見入いたれたちまいためでもおなど、たちまいかでも自己の力、 地容を見ついたちまなものなどの、たちたが、プログラム前後の一般自己の力 メスを見合いたまれたちまないたちもおなるまの、たちたが、プログラム前後の一般自己効力 メスを見合いたまれたちまないたちもないたちたかたちためためで フリート調査会社の記載のなどからため、たちため、プログラム前後の一般自己効力 メスを見入いたまれたちまないためでしたたちためでするたが、 フリート調査会社の話様のも目的においたちためたちためでのようため、 これたちたちためためためためためでのたちたが、プログラム前後の一般自己の力 メスを見合いたちまないためであっためためためためためためためためためためためためためためためためためためため							
Publication year         2019           Julic         学事原質者会研究成果実練報告書 (2018.)           Jalic CDOI           Abstract         看護係学部の教育の国際化においては、本学部学生が海外で学習、活動する機会は充実してい なしかし、留学生を受け入れ、本学部からもほぼ同致の学生が参加してのプログラムとなった。2016年度に試験 のに短期常受け入れ、本学部からもほぼ同致の学生が参加してのプログラムとなった。2016年度に試験 のに短期常受け入れ、本学部からもほぼ同致の学生が参加してのプログラムとなった。2016年度17 年度のプログラムクキからの評価は高く、ネ研究は、看護教育基礎における短期増与生臭け入れ 国際交流プログラムの効果について明らかししていくことを目的にしている。 2017年度に国際交流プログラムの効果について明らかししていくことを目的にしている。 2017年度に国際交流プログラムの加速について明らかししていくことを目的にしている。 2017年度に国際交流プログラムの時に 立案に合わせて、参加条件で同時間をごたいっては残る 4000×2010年、1000年度(General Solite Kingsy 2010年)を見いる 国際文法プログラムの効果について用きな法定し、アログラムと関する先行研究のレ ビューに基づき、アンケートを考慮した。 2018年度にはや調査に向いて、予備調査の法定し、アログラムと関する先行研究のレ ビューに基づき、アンケート教達項目を決定し、アログラムを加速やく同時的と終了後の変化を 調定するた度として、本律EUのアンゲートの自由記述像に導極的に登見が記述されるこ とが明らかになったので、本年度のアンゲートの自由記述像に運動的に変わった たま、予備調査で参加学なの整欲は高くアンゲートの自由記述場に導極的に登見が記述されるこ とが明らたいたまったので、本年度のアンゲートの自由記述場に導極的に登見が記述されるこ とが明らかになったので、本年度のアンゲートの目前記述場合で通知の一般自己効力 原度を用いた評価に属切してお見れたさえれて、ホガデャへの同意を得た。 2018年度として、ログシケート回収率は100%であっただ、プログラム前調査、2月8日にプロ グラム後調査を実施した。アンゲート回収率は100%であっただ、プログラム前調査、2月8日にプロ グラム後調査を実施した。アンゲート回収率は100%であっただ、プログラム前調査、2月8日にプロ グラム後調査を実施した。アンゲートと関いてのコード化が終わり、今後、データを分析し論 文にまため、画際路への決売を目指す。 11 hteglobal and international education of the Faculty of Autings 4000×400 Approximately 10 foreign students for full-year education. Therefore, the faculty conducted a short- term international exchange program on a fral basis in fical 2016 and in fiscal 2017, the rogram has received approximately 20 foreign students for the short-term international exchange program, and the University opportunities for the short-term international exchange program, and the University opportunities for the short-term international exchange program, and we subceted Teneor Short in the facelited in the facelity on universities (Korea: Euji of University, China: Fudan University, UK University of Washingothy Unity the preparation for the short-term inter							
Jittle         学事振興道会研究成果実練報告書(2018.)           JaLC DOI              春薗医常学部の教育の国際化においては、本学部学生が海外で学習、活動する機会は充実してい み。しかし、留学生の通牛教育への受け入れは国際な状況にある。本学者では、2016年度に対 的に取開学受け入れ、大学部からもほぼ同数の学生が参加してのプログラムをなった。2016年度17 年達のうログラム学生からの評価は高く、本研究は、看護教育基礎における短期学生受け入れ 国際交流プログラムの効果こついて明らかにしていくことを目的にしている。 2017年度に国際交流プログラムの計画・立家に合わせて、参加大学(第回)に支大学、中国:後 見たき、実面:サフオーク大学、米国:フンドンナギ)の関係者と本研究について検討し、本 研究を其同で進めていくことが想要され、本調査の準備として関係者へのインタビューや予備調 カンパートを実施した。 2017年度に国際交流が留学プログラムに関する未行研究のし ビューに登づき、アンケートを実施した。 2018年度は不可能を決定して関係者へのインタビューや予備調 カとして可修後アンケートを実施した。 2018年度は本調査に向いて、予備調査の結果と国際交流が留学プログラムに関する未行研究のし ビューに登づき、アンケートを実施した。 2018年度は本調査に同じて、予備調査の法界と国際交流が留学プログラムに買する未行使の変化を 別定するた度として、一般自己効力感尽度(General Self-Efficacy Scale)を用いることにした。 また、デ備調査で参加学生の意欲は高くアンケートの自由記述編に着簡のはまれて必要が 対象とすることにした。 アンケート教養したいて、マートの同業を得た。 との目的などをして、一般自己効力感見度(General Self-Efficacy Scale)を用いることにした。 また、デ術調査の参加学生の意欲は高くアンケートの自由記述編に差徴をいための入れ、 現在学を加学生の意欲は高くアンケートの目由記述編に差徴を引いための入れ、 現用学学スプログラム参加者42人に対して、2018年2月4日にプログラム前導書、2月8日にアン ト間調査を実施してのこードにが終わり、今歳、デクタ会分析し論 文に見たてののの影を得た。 別加学を注意でした。アンケートの国に取る目的ない計算像、2月8日にアン ト間調査を実施してのこう、本学がののの意を得た。 別加学ではないまたいかきためのの人、 和自な意味を見合いためのためのえか、 れば回転のしてのコードビがなわりれ、	Publisher	慶應義塾大学					
JaLC DOI Abstract Abstract	Publication year	2019					
Abstract 有量医療学部の教育の国際化においては、本学部学生が角外で学習、活動する機会は充実してい る。しかし、留学生の通律教育への受け入れば困難な状況にある。本学部では、2016年度に試験 的に気期留学受け入れ、ホ学部からもほぼ同数の学士が多加してのプログラムとなった。2016年度いて 常要のプログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしから。 2017年度のごログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしから。 2017年度に国際交流プログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしから。 2017年度に国際交流プログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしから。 2017年度に国際交流プログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしから。 2017年度に国際交流プログラムの加速した。 2017年度に国際交流プログラムの計画・立象に合わせて、参加大学(弾音)ごえ大学、中国:後 ロ大学、英国:サフォーク大学、米国:ワシントン大学)の関係者と本研究について検討し、本 研究を共同で進めていくことが提案され、本環査の準備として関係者へのインタビューや予備調 差として研修後アンケートを実施した。 2018年度は本調査に向けて、予備調査の結果と国際交流が含く着かのパンタビューや予備調 差として研修後アンケートを実施した。 2018年度は本調査に向けて、予備目音な決定し、プログラム参加学生の傍時前と終了後の変化を 測定する尺度として、一般自己効力感尽度(General Self-Efficacy Scale)を見外いることにした。 また、予備調査を加め生きの含欲は高くアンケートの自由記述場を設け、そよる多が作 対象とすることして、、本学部研究検護要員会の商業を受け、また、参加大学の責任者にアンケ ト)調査裏などの詳細を共有したうえで、不研究への同意を得た。 短期留学長スプログラム参加者を4人だ対して、2018年2月4日にプログラム前職金、2月8日にプロ グラム後調るフログラータスとしか同なまった。アングートも属果の統計解析のための入力、 自己認識欄でデストアーラスンとの容に関してのコード化が終わり、今後、データを分析し論 文にまとも、国際誌への投稿を目指す。 In the global and inferenzional fice and in fiscal 2017 fue rogram. In the global and inferenzional fice and in fiscal 2017 fue rogram. In the global and inferenzional fice and in fiscal 2017 fue rogram. Na sr ceeved approximately 20 foreign students for ful-yaar education. Therefore, the facility advised at the fiscal 2015 fue rogram. In Keio University opportunities for the studentis for study and practice abroad are enriched. However, it is difficult to accept foreign students for study and practice abroad are enriched. However, it is difficult to accept foreign students for full-yaar education. Therefore, the faculty conducted a short- term international education of the Faculty of Mursing and Medical Care in Keio University opportunities for the studentis for Mice and foreid 2017. Here gram the second of the predimarty was stogested that we advanced the research with collaboration. There foreign and the research with program students. In fiscal 2017, we discussed the pion of the study for insing and medical care, and bar everti	Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)					
<ul> <li>る。しかし、留学生の著牛教育への受け入れは困難な状況にある。本学部では、2016年度に試験 的に短期留学受け入れ、本学部からも提供同数の学生が参加してのプログラムとなった。2016年度17 年度のプログラム学生からの評価は高く、本研究は、電観教育基礎における短期留学生受け入れ 国際交流プログラムの対象について明らかにしていくことを目的もにしている。</li> <li>2017年度に国際交流プログラムの計画・立案に合わせて、参加大学(韓国:乙支大学、中国:役 日大学、反国・サファーク大学、米国:ワシントン大学、)の関係者と本研究について検討し、本 研究を共同で進めていくことが提案され、本調査の準備として関係者へのインタビューや予備調 差として明修復アンケートを実施した。</li> <li>2018年度は本調査に向けて、予備調査の結果と国際交流や留学プログラムに関する失行研究のレ ビューに基づき、アンケート防護査賃目を決定し、プログラム参加学生の関始に決了後辺ら死化を 測定する大限を上で、一般自己効力服成度(General Safe-Efficacy Scale )を用いることにした。。 また、予備調査で多加学生の変欲は高くアンケートの自由記述構で読むからこま見が記述されるこ とが明らかになったので、本年度のアンケート調査においても自由記述構を設け、それらも分析 対象とすることにした。本学部研究倫理委員会の承認を受け、また、参加大学の責任者にアンケ ート調査票などの詳細を共有したうえて、本研究への同連を得た。</li> <li>2018年20大コークスクタ助和名父に対して、2018年2月4日にプログラム結調査、2月6日にプロ グラム後調査を実施した。アンケート回収率は100%であったが、プログラム論後の一般自己効力 感尽度を見いた所価で関してな回答なしが26あった。のアンケート結果の結ド解析のための入力、 自由記載欄のデキストデータ入力と内容に関してのコード化が終わり、今後、データを分析し論 文にまとめ、回聴誌への投稿を目指す。</li> <li>n the global and international of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the students to study and practice abroad are enriched. However, it is difficult accept freqing students for full-yaer ducation. Therefore, the faculty conducted a short- term international education of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for the students to study and practice abroad are enriched. However, it is difficult accept freqing students for Nork Keita, Pita Acid Jun, the United Kingdom, and the United States with the similar number of Keio nursing students.</li> <li>In fiscal 2017, we discussed the plan of this study with the staff of participating universities (Korea: Eulij of University, Chare: Fuel Acid Turgersity a Surgersity of Washington) during the description acid here the program has received approximative with the staff of participating universities (Korea: Eulij of University, Chare: Eulis Juniversity of Washington) during the preparation for the short-term international exchange program. It was suggested hat we advance the research with collaboration, the we local</li></ul>	JaLC DOI						
Notes	Abstract	着護医療学部の教育の国際化においては、本学部学生が海外で学習・活動する機会は充実している。しかし、留学生の適年教育への受け入れば困難な状況にある。本学部では、2016年度に試験的に短期留学受け入れ、本学部グらもほぼ同教の学生が参加してのプログラムとなった。2016年度に試験のご短期留学受け入れ、本学部グらもほぼ同教の学生が参加してのプログラムとなった。2016年度17年度のプログラムシをようら評価は着く、本研究は、電影教育基礎における短期留学生受け入れ、国際交流プログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしている。 2017年度に国際交流プログラムの効果について明らかにしていくことを目的にしている。 2017年度に国際交流プログラムの計画・立案に合わせて、参加大学(韓国:乙支大学、中国:復日大学、英国:サフォーク大学、米国:ワシントン大学)の関係者と本研究について検討し、本研究を実用で進みていくことが提案され、本調査の準備として関係者へのインタビューや予備調査として研修後アンケートを実施した。 2018年度は本調査に向けて、予備調査の結果と国際交流や留学プログラムに関する先行研究のレビューに基づき、アンケート間増す目を決定し、プログラム参加学その開始的と経了後の変化を測定するため、2018年度として、一般目已改功規定(General Self-Efficacy Scale )を用いることにした。 2018年度として、一般目已改力成果度(General Self-Efficacy Scale )を用いることにした。 また、予備調査で参加学生の意欲は高くアンケートの自由記述欄に積極的に意見が記述されることが明らかになったので、本年度のアンケート調査においても自由記述欄を設け、それらも分析 対象とすることにした。本学部研究・備理委員会の承認を受け、また、参加大学の責任者にアンケート調査素などの詳細を共有したうえて、本研究への同意を得た。 2018年度を見いた。アンケート回収率は100%であったが、プログラム前調査、2月8日にプロ グラム後調査を実施した。アンケート回収率は100%であったが、プログラム前譲査、2月8日にプロ グラム後調査を実施した。アンケート回収率は100%であったが、プログラム前後の一般自己効力 感見度を用いた評価に関しては営なしが2名参った。アンケート結果の統計解析のための入力、 1日記載欄のラキストラーマタ入力と内容に関してのコード化が終わり、今後、データを分析し論 文にまとめ、国際誌への投幕を目指す。 In the global and international extended However, it is difficult to accept foreign students for full-year education. Therefore, the faculty conducted a short- term international education of the Faculty of Nursing and Medical Care in Keio University opportunities for full-year education. Therefore, the faculty conducted a short- term international education to the Stauty and in fiscal 2016 and in fiscal 2017, the orgam has received approximately 20 foreign students from Korea, China, the United Kingdom, and the University Ophica Students for Mill-year education. Therefore, the faculty onducted a short- term international exchange program no a traitabasis in fiscal 2016 and in fiscal 2017, the orgam has received approximately 20 foreign students from Korea, China, the University Kina: Euclide Students in the short-term international exchange program. It was suggested that we advanced the research with collaboration, the weakindowes, and we sele					
	Notes						

Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180183

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2018 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

r			1								
研究代表者	所属	看護医療学部	職名	専任講師	→補助額	500(特B)	(性口)エロ				
利加るな	氏名	藤屋 リカ	氏名(英語)	Rika Fujiya	myjax	000 (140)	, , , ,				
			究課題(日本語	吾)							
手灌教育にお(	看護教育における短期留学生受け入れ国際交流プログラムの効果										
研究課題(英訳)											
Effects of shor	Effects of short-term international exchange program in nursing education										
			研究成果実績の								
		それにおいては、本学部学生が									
		5る。本学部では、2016 年度に									
		留学生を受け入れ、本学部か									
		は高く、本研究は、看護教育基	を礎における短期	朝留学生受け入れ国際交流フ	『ログラムの効果	について見	明ら				
	かにしていくことを目的にしている。										
_2017年度に国際交流プログラムの計画・立案に合わせて、参加大学(韓国:乙支大学、中国:復旦大学、英国:サフォーク大学、米											
国:ワシントン大学)の関係者と本研究について検討し、本研究を共同で進めていくことが提案され、本調査の準備として関係者へのイ											
ンタビューや予備調査として研修後アンケートを実施した。											
2018 年度は本調査に向けて、予備調査の結果と国際交流や留学プログラムに関する先行研究のレビューに基づき、アンケート調査 項目を決定し、プログラム参加学生の開始前と終了後の変化を測定する尺度として、一般自己効力感尺度(General Self-Efficacy											
		た、予備調査で参加学生の意									
		ッケート調査においても自由記 学の責任者にアンケート調査票				<b>汽</b> 栅理安良	見云				
		ーの員任者にアンケート調査票 加者 42 人に対して、2018 年 2				に宝佐した					
		加省 42 スに対して、2010 年 2 ったが、プログラム前後の一般									
		、力、自由記載欄のテキストデ・									
まとめ、国際誌			JULIA			/J 1/1 C nm /	~!~				
			中田中体の有								
			成果実績の概要								
		education of the Faculty of N									
		are enriched. However, it is o									
	faculty conducted a short-term international exchange program on a trial basis in fiscal 2016 and in fiscal 2017, the program has received approximately 20 foreign students from Korea, China, the United Kingdom, and the United States with the similar number of										
		eign students from Korea, Chi	ina, the United	Kingdom, and the United Stat	tes with the sim	lar numbe	r of				
-	Keio nursing students.										
In fiscal 2017, we discussed the plan of this study with the staff of participating universities (Korea: Eulji of University, China: Fudan											
	University, UK: University of Suffolk, USA: University of Washington) during the preparation for the short-term international exchange										
program. It was suggested that we advanced the research with collaboration, then we conducted the post-program questionnaire and											
	interviews and related investigation to the stakeholders.										
In fiscal 2018, we decided the questionnaire survey items based on the results of the preliminary survey and the review of prior research on international exchange and study-abroad programs, and we selected "General Self-Efficacy Scale" as a scale to measure											
	the change before and after the program participation student. In addition, the preliminary survey indicated that the participants'										
_	motivation was high and opinions were positively described in the free description column of the questionnaire, we also added a free										
	description column in the questionnaire survey of this fiscal year. This research was approved by the research ethics committee of										
the faculty of nursing and medical care, and we agreed to this research with the supervisors of the participating universities for											
sharing the details such as questionnaires.											
_		survey on February 4, 2018 a	nd a post-prog	ram survey on February 8 for	· 42 participants	of the sho	ort-				
term exchange program. Although the questionnaire recovery rate was 100%, two participants were no responses for the evaluation											
using the gene	ral self-efficac	y scale before and after the	program. We co	ompleted the input the quest	ionnaire results	for statist	tical				
		ed coding about the text data									
compile articles	s, and aim to a	submit article to an internation	nal journal.								
		3、本社	研究課題に関す	-る発表							
	<b>长</b> 氏夕				学術社名	行在日					
(著者・	皆氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	(‡	発表学術誌名 著書発行所・講演学会)	学術誌発 (著書発行年月	・講演年	:月)				